

東洋エンジニアリング/三井海洋開発

中小規模 GTL 実証試験につきペトロブラスと協力

平成22年3月4日
東洋エンジニアリング株式会社
三井海洋開発株式会社

東洋エンジニアリング株式会社（取締役社長 山田豊）と三井海洋開発株式会社（以下 MODEC、取締役会長 山田健司）は、2007年11月より共同で進めてきた、中小規模 GTL 開発が実証段階を迎えたとして、今般ブラジル国営石油会社ペトロブラス（総裁 セルジオ・ガブリエリ）と協力契約を締結し、実証設備の建設を開始しました。

米国ペロシス社（プレジデント&マネージングダイレクター トム・ヒッキー）が基本特許を保有するマイクロチャンネル反応器を用いる新 GTL プロセスの実証プラントは、ブラジル セアラ州フォルタレザ市にあるペトロブラスの製油所内に 2011 年初めに建設完了し、完成後の実証運転により、その性能の確認、商業機設計の為のデータ採取を行い、2011 年末の商業化完了を目指します。ペトロブラスは、ブラジル国内における洋上原油生産に随伴するガスやへき地にあるガス田の天然ガスを GTL により液体転換することで原油の増産を意図し、今回の実証試験に協力します。なお、マイクロチャンネル反応器の製作には、株式会社神戸製鋼所（代表取締役社長 佐藤廣士）の協力を得ています。

東洋エンジニアリングは石油精製、石油化学プラント建設分野で実績を有するエンジニアリング会社、MODEC は海洋石油・ガス田開発の国際的リーディングカンパニーです。両社はそれぞれが有する技術を統合して、特に洋上へも適用可能な GTL プロセスの開発を促進し、新たな市場開拓を追及していくための戦略的アライアンスとして本開発を位置づけ、2007年11月より共同でプロジェクトをスタートしました。今般、石油随伴ガスや中小規模ガス田への適用需要が高まっていること、ならびに本商品開発が順調に進捗し新たな段階へ進んだことで、当初の予定を約1年前倒して商品化完了することを目指します。実証試験が成功裡に完了後の商業化1号機は、洋上石油開発に伴う随伴ガス処理用として FPSO（洋上石油生産貯蔵設備）に併載する小型 GTL を想定しています。

現在、3,000 tcf（兆立方フィート）以上の天然ガスが、世界の市場への搬出手段がないために未開発もしくは利用できない状態にあります。今回商業化を目指すGTLプロセスは、これら未利用の天然ガスや大気放出・燃焼処理されている石油随伴ガスを有効利用するものであり、地球温暖化ガスの排出削減による環境改善にも寄与するものです。

<お問合せ先> 東洋エンジニアリング株式会社 広報・IR室長 川腰 TEL:047-454-1113

